

研究する動物園9：特集論文の趣旨説明

佐々木基樹^{1)*}，遠藤秀紀²⁾，浅川満彦³⁾

1) 帯広畜産大学獣医学研究部門 〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地

2) 東京大学総合研究博物館 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

3) 酪農学園大学獣医学群 〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地

[2018年1月13日受領，2018年7月8日採択]

動物園の役割には、「種の保存」，「教育・環境教育」，「調査・研究」，そして「レクリエーション」の4つが挙げられる。その役割の1つである「調査・研究」を積極的に推進することによって得られた多くの新知見は，残り3つの役割にも大きく貢献し，またそれがフィードバックされて相乗的効果を生み出していくものとする。動物園が，科学に裏付けられた自身の「姿」をさまざまな機会にアウトプットしていくことは，「知」の蓄積を顕在化させ，その「姿」を共有化していくことに他ならない。

本特集は，2016年9月16日(金)～18日(日)に宮崎市民プラザで開催された第22回日本野生動物医学学会大会(宮崎大会)において，本学会の学術・教育委員会の主催によって9月17日(土)に行われた自由集会「研究する動物園9」での講演に基づくもので，以下の4編の特集論文を掲載している。

1. 「人のため，動物のために，飼育動物と研究する」
松本直也(加森観光株式会社)
2. 「ハズバンダリートレーニングを用いた研究の可能性」
伴 和幸，椎原春一(大牟田市動物園)
3. 「ハズバンダリートレーニングにより広がる動物園での獣医療と研究の可能性」
川瀬啓祐，椎原春一(大牟田市動物園)
4. 「動物園でも研究はできる！私の行った方法の紹介」
木戸伸英(公益財団法人横浜市緑の協会金沢動物園)

これらの特集論文が，動物園における研究活動や獣医療，そして動物園がその使命を果たすための一助となることを願っている。

* 責任著者：佐々木基樹 (E-mail: sasakim@obihiro.ac.jp)